

ゴリラとオランウータン

第 61 回「東山動植物園写真コンクール」の審査があり、話題の「イケメンゴリラ」の親子をとらえた刈谷市の岡本邦良さんの「視線」が名古屋市長賞に選ばれた(朝日新聞 12 月 15 日朝刊)。じっと見つめる赤ちゃんゴリラの視線が、なんとも言えない。

じつは「イケメンゴリラ」を一目見ようと、入院前に久しぶりに東山動植物園に出かけた。動植物園には日曜日ごとによく出かけたが、長い間ご無沙汰していた。入院を前に、気持ちを切り替えるために、思い切って出かけることにした。

あいにくの雨だったが、「イケメン」の前に、多くの人が集まっていた。遠くから眺めたが、目の調子が悪いこともあり、あまりよく見えなかった。隣の園舎に向かうと、オランウータンが近くで珍しく「愛想」を振りまいていた。隣の「イケメン」を嫉妬しているようであった。

オランウータンはマレー語で「森の住人」という名をもつ。WWF サイトによると、「オランウータンは現在、生息地である熱帯の森の急速な消失によって、絶滅の危機に瀕しています。オランウータンの個体数は、過去 100 年の間に、およそ 80% 減少したと見られています。その主な原因は、違法伐採や農地開拓などによる生息地の減少。また、ペットにすることを目的とした、違法な密猟や密輸なども大きな脅威です」と指摘している。

もういちどゴリラへ。『東山動植物園オフィシャル ゴリラ写真集 シャバーニ!』が出版された。ゴリラ園舎の柵にも、宣伝ポスターが掲げてあった。朝日新聞 12 月 13 日朝刊に美術評論家の北澤憲昭さんが書評していた。「擬人化が、人間のイメージを、人間以外の存在に覆い被せることだとすれば、名古屋の東山動植物園の人気者、ゴリラのシャバーニは、まちがいなく擬人化されている。名前を与えられているのもさることながら、写真集の各ページにしるされた歴史上の名言、至言は、無声映画の弁士のように、シャバーニのふとした表情や身振りの意味に深みを与えずにはいない。」

(2015 年 12 月 20 日)



「視線」 名古屋市長賞・岡本邦良さん(刈谷市)

